



## 健康危機対応能力強化に向けた グローバル感染症対策人材育成・ ネットワーク強化 (PREPARE)

### 要 旨

- 感染症による健康危機（生命、健康の安全を脅かす事態）への対応はグローバルな課題。健康危機への対応能力強化は日本の対策体制強化の経験、技術等を活かし貢献できる分野。日本はこれまで世界の感染症拠点検査室ラボに協力してきた。
- JICA は健康危機対応能力強化に向けたグローバル感染症対策人材育成・ネットワーク強化（Partnership for Building Resilience against Public Health Emergencies through Advanced Research and Education (PREPARE)）を推進する。具体的には、①感染症拠点実験・検査室（ラボ）の機能強化、②感染症対策人材の育成、③地域・国際イニシアティブへの貢献に取り組む。

### 概要と方針

- 世界では多くの人々が感染症で死亡しており、新興・再興感染症の流行は人間の安全保障に脅威をもたらしている。近年では 2014 年の西アフリカにおけるエボラウイルス病の流行により、特にアフリカ大陸における公衆衛生危機に対する備えと対応の強化の重要性が国際的にも強く認知されることとなった。
- 日本政府は健康危機対応に向けたグローバルな取り組みを推進している。2016 年 2 月には「国際的脅威となる感染症対策強化のための基本方針・基本計画」を決定し、国際的な対応と国内対策の一体的推進や感染症発生国・地域に対する支援強化を表明した。同年 5 月の G7 サミットでは、日本政府は「国際保健のための G7 伊勢志摩ビジョン」を提唱、健康危機への備えを含むユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の達成等への合意を主導した。さらに、同年 8 月の TICAD VI では、日本政府は「ナイロビ行動計画」において、アフリカにおける UHC 推進の一環として健康危機への対応能力の強化支援を表明した。
- JICA はこれまで無償資金協力による施設整備と技術協力による人材育成や研究協力を組み合わせながら、アフリカではケニアの中央医学研究所（KEMRI）、ガーナの野口記念医学研究所（NMIMR）、ザンビアのザンビア大学獣医学部（UNZA-SVM）、アジアではベトナムの国立衛生疫学研究所（NIHE）、フィリピンの熱帯医学研究所（RITM）などを支援してきた。今日、これらの施設は地域を代表する感染症対策拠点に成長し、その高度かつ安全なラボや高い技術を持つ人材は、国を超えて脅威となる感染症の対策に貢献している。
- このようなグローバルな健康危機対応の必要性、対策強化に関する日本政府の方針をふまえ、JICA はこれまでの世界の感染症拠点ラボへの協力アセットを活かし、健康危機対応能力強化に向けたグローバル感染症対策人材育成・ネットワーク強化（PREPARE）を推進する。PREPARE は三つの柱、①感染症対策拠点ラボの機能強化、②感染症対策人材の育成、③地域・国際イニシアティブへの貢献からなり、関係各国の感染症対策拠点ラボのネットワーク及び日本国内の感染症対策拠点との協力関係を強化し、日本を含むグローバルな健康危機管理体制の構築に協力する。

#### 健康危機対応能力強化に向けたグローバル感染症対策人材育成・ネットワーク強化

(Partnership for Building Resilience against Public Health Emergencies  
through Advanced Research and Education (PREPARE))

感染症対策拠点ラボの機能強化

感染症対策人材の育成

地域・国際イニシアティブへの貢献

# 事例

## 感染症対策拠点ラボの機能強化

- 各国の感染症対策拠点ラボの教育・研究環境の整備や研究事業の推進、感染症対策の能力向上を支援。
- これら拠点ラボをベースにした周辺地域の対応能力の向上や日本国内の関係拠点ラボとの協力関係強化を推進。

### ケニア (Kenya)

- <協力拠点ラボ> ケニア中央医学研究所 (KEMRI)
- 結核対策アドバイザー (個別専門家) 2014年～2017年
  - 黄熱病およびリフトバレー熱に対する迅速診断法の開発とそのアウトブレイク警戒システムの構築 (SATREPS<sup>1</sup>) 2012年～2017年
  - 疾病サーベイランスアドバイザー (個別専門家) 2019年～ (予定)

### ガーナ (Ghana)

- <協力拠点ラボ> 野口記念医学研究所 (NMIMR)
- ガーナにおける感染症サーベイランス体制強化とコレラ菌・HIV等の腸管粘膜感染防御に関する研究 (SATREPS) 2016年～2021年
  - 野口記念医学研究所安全・質管理向上プロジェクト (無償資金協力)

### ナイジェリア (Nigeria)

- <協力拠点ラボ> ナイジェリア疾病管理センター (NCDC)
- 公衆衛生上の脅威の検出及び対応強化プロジェクト (技術協力) 2019年～ (予定)
  - ナイジェリア疾病予防センターネットワーク検査室機能強化計画 (無償資金協力)

### コンゴ民主共和国 (DRC)

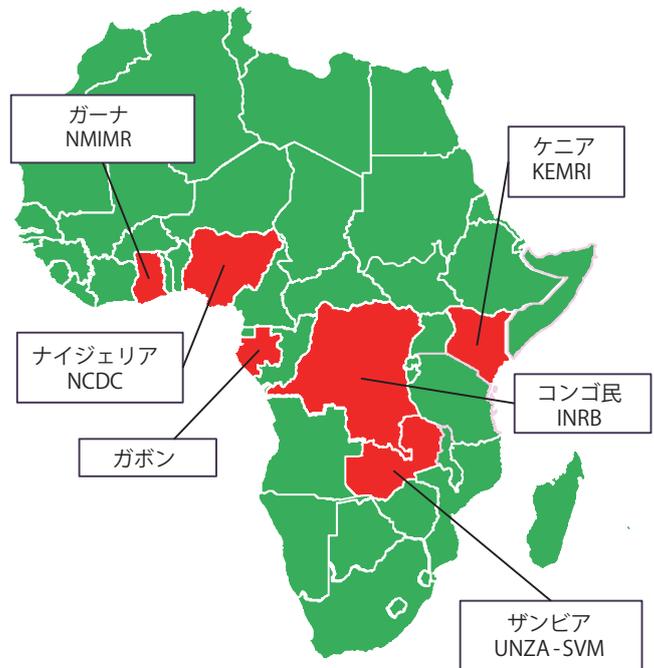
- <協力拠点ラボ> 国立生物医学研究所 (INRB)
- 国立生物医学研究所拡充計画 (無償資金協力) 2019年完工 (予定)
  - 感染症疫学サーベイランスシステム強化プロジェクト (技術協力) 2019年～ (予定)
  - アフリカにおける人獣共通感染症の疫学に関する研究 (SATREPS) 2019年～ (予定: ザンビアと2か国対象)

### ガボン (Gabon)

- 公衆衛生上問題となっているウイルス感染症の把握と実験室診断法の確立プロジェクト (SATREPS) 2016年～21年

### ザンビア (Zambia)

- <協力拠点ラボ> ザンビア大学獣医学部 (UNZA-SVM)  
ザンビア大学教育病院 (UTH)
- アフリカにおけるウイルス性人獣共通感染症の調査研究プロジェクト (SATREPS) 2013年～18年
  - アフリカにおける人獣共通感染症の疫学に関する研究 (SATREPS) 2019年～ (予定: コンゴ民主共和国と2か国対象)



## 感染症対策人材の育成

- 各国の拠点ラボや感染症対策行政の中核人材を中心に感染症について幅広い知識と技術、グローバルな俯瞰力を備え、教育研究の推進と感染症対策でリーダーシップを発揮できる国際的リーダーを日本や第三国で養成

### 留学生事業 (海外から日本へ)

- 北海道大学大学院 感染症対策分野における博士課程及びポストドクへの受入 2017年～
- 長崎大学大学院 感染症対策分野における博士課程及び修士課程への受入 2017年～

- 各国の拠点ラボを活かした周辺地域の人材養成の養成に協力

### 地域研修 (拠点国から周辺地域へ)

- アフリカ北部はエジプト、東部はケニア (KEMRI)、西部はナイジェリア (NCDC) / ガーナ (NMIMR)、南部はザンビア (UNZA-SVM、UTH) をベースとした地域研修 (予定)

## 地域・国際イニシアティブへの貢献

- 関係各国の拠点ラボ間、拠点ラボの周辺地域のネットワーク強化や知見共有、国際イニシアティブに協力

### アフリカ疾病対策センター (Africa CDC) との連携、国際会議への参加等

- 2017年12月にアフリカ疾病対策センター (AfricaCDC) と協力趣意書を締結
- アフリカ域内の健康危機等に関する会議等に参加

1: SATREPS: JICA、国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) が連携し、日本と開発途上国の研究機関が実施する共同研究により、感染症等の地球規模課題の解決を目指す技術協力